銀葦（しろがねよし）

税務と経営

編集発行人
税理士
村野幸司

事務所　〒639-2102
奈良県葛城市東室123番地1
TEL　0745（69）8282
FAX　0745（69）7377
自宅　0745（69）2174

9月 （長月） SEPTEMBER

18日・敬老の日
23日・秋分の日

日	・	10	24
月	・	11	25
火	・	12	26
水	・	13	27
木	・	14	28
金	1	15	29
土	2	16	30
日	3	17	・
月	4	18	・
火	5	19	・
水	6	20	・
木	7	21	・
金	8	22	・
土	9	23	・

9月の税務と労務

国　税／8月分源泉所得税の納付　9月11日

国　税／7月決算法人の確定申告（法人税・消費税等）　10月2日

国　税／1月決算法人の中間申告　10月2日

国　税／10月、1月、4月決算法人の消費税等の中間申告（年3回の場合）　10月2日

ワンポイント　空き店舗の固定資産税住宅用地特例の見直し

住宅用地に対しては固定資産税を最大6分の1まで減額する特例があり、店舗併用住宅にも特例の適用が認められていますが、空き店舗には、この特例を認めないとする政府の方針が6月に決定されています。詳細は年末に公表される与党税制改正大綱で明らかにされます。

～銀行融資について～

金融機関が重視するポイント

銀行からの融資は、事業を継続していくうえでは切っても切り離せないものです。でも融資獲得を重視するあまり、いつのまにか融資を受けることだけが、目的となっていたりしませんか？

実際には、準備が不足していたり、知識が不足しているが故に、融資の手続きに疲れて面倒くさくなり、融資を受けることが自体が目的に摺り変わってしまうことが多いのです。融資を受けることは本来、事業の目的を達成するための一つの手段にすぎません。

事業を進めていく究極の目的は、「お客様に喜んでもらえる商品やサービスを提供し、利益を生み出す」ということです。これを忘れてはいけません。また、借入ではなくリスケジュールの交渉を銀行と行う際でも同じです。金融機関が何を重視しているのか、資金使途と返済条件の関係（とりわけ、資金使途に合わない返済条件で借入をしていないか）など、銀行融資について理解をしておくことが非常に有益です。

◎融資を受けるための三つのポイント

目的達成の重要な手段である「融資」をスムーズに受けるためには、金融機関が重要視しているポイントを考えてみるとよいでしょう。

銀行融資に際して、金融機関が重要視しているポイントは、資金使途の明確化と返済原資、担保（保全面）です。融資の審査においても、この三つの観点からの審査が中心となります。

1 資金使途の明確化

資金使途明確化の観点からは、資金を必要とする背景つまり融資事由と、具体的に必要とする資金の額や借入希望金額の妥当性について検討していきます。なぜ融資が必要なのか、具体的に説明できますか。

わかりやすく言うと、「何に使うのか」「いくら必要なのか」を経営者は確実に把握しておかなくてはなりません。

設備資金の融資が希望であれば、その設備がなぜ必要なのか、今の設備ではだめなのか、その設備投資によってどの位の期間で、いくらの利益を生み出すことができるのか、ということを、説得力のある具体的な数字で説明することが必要です。

新商品のための開発費用・広告宣伝費・仕入代金等も同様です。運転資金であれば、経営者の認識が、単に「運転資金」というだけではいけません。本来は、営業活動は仕入・販売・経費支払のくり返しですから、運転資金は不足しないはずです。それでも不足するのは、売上代金の回収と仕入代金支払の期間のタイムラグの存在が、大きな理由の一つです。タイムラグが原因なのであれば、具体的な支払期日・代金回収予定日・金額を把握した上で、融資の必要額を吟味し、説明することが重要なのです。

2 返済原資

返済原資の観点からは、資金需要の原因に対応する返済財源や返済計画の妥当性について検討します。

借入で調達した資金は、「絶対返済しなければならない、そして調達コストがかかる」ということを常に認識すれば、必然的に融資の必要性を、具体的に把握することになるでしょう。借りたお金は必ず返す必要があります。まずは、自分がお金を貸す立場になって冷静に考えてみてください。恐らく、普通であ

れば、「貸したお金がしっかり返済されるか」という点が、一番心配になる点だと思います。金融機関でも全く同じです。

あなたの人格やビジネスに対しての意気込みは認めても、何よりも返済を滞りなくできるだけの収益が本当にこのビジネスで見込めるかどうかを基準に、融資の判断を行っていきます。したがって融資を受ける際は、どのような方法で利益を出し、返済原資をどのように捻出するのかを、具体的に自分の言葉で説明できなければなりません。最も有効なのは、資金繰り表を作って返済財源がしっかりとあることを示し説明することです。

3 担保の観点

担保の観点からは、保全不足の場合、追加担保の要求や信用保証協会の利用、有力保証人の追加などの検討が行われます。

仮に返済原資がしっかり見込まれるものだとしても、金融機関は「もしそれが崩れたら」といった観点から保全を求めます。事業内容の担保だけではなかなか融資額の限りがあるのが日本の金融機関の融資の現状です。

4 その他

前記1～3が重要なのはもちろんですが、それ以外に普段からどのようなことを注意しておけばよいでしょうか。1～3の信用に加えて、以下の要件も非常に重要となってきます。

①試算表や資金繰り表を定期的に金融機関に提出する

…会社の業績や資金繰りに関する理解が高まれば高まるほど、融資審査は有利となります。財務情報は隠さず明らかにする。これによって逆に金融機関側から先に融資の提案が、ある場合もあります。提供する情報量や内容に応じて、融資は有利になる可能性が高いと考えてください。

②税金は滞納しない

…あたり前のことですが、税金、社会保険料、公共料金を滞納していれば、銀行はなかなかお金を貸してくれません。公的な機関からの融資や保証も同じです。

このため知人等から一時的に借りてでも納付するべきです。一時的に調達したお金は、銀行からお金を借りることができたら、返済すればよいでしょう。

③関連会社がある場合には、関連会社との関係を明確にする

…関連会社がある場合、金融機関は、融資した資金がその関連会社に流用されてしまうのではないかと疑います。

関連会社の事業内容や財務状況は、積極的に説明しておく必要があります。直接関連がないのだからと関連会社の決算書を拒む経営者も多くいますが、積極的に開示・説明したほうが信用力は上がります。

④交渉は担当者任せにしない

…交渉や面談を、担当者任せにする経営者も多いようですが、経営者自らがされることをお勧めします。

経営者自らが説明することで、金融機関に対しても信用度が高まります。

⑤金融機関から融資を受けやすい決算書を作る

…金融機関は、すべての会社を格付けしています。格付けが上の会社ほど、融資には有利です。金融機関の格付けは、決算書でほぼ決まります。粉飾をしろということではなく、損益計算書や貸借対照表の上できっちりした表示がされた決算書を作るという意味です。

例えば突発的な営業外の特別な損失を雑損失と表示している決算書がよくみられます。これによって本来の営業利益はプラスなのに、決算書の表面上、営業損失が大きく計上されてしまったりすると大きなマイナス評価になってしまいます。その辺りをしっかり確認しておきましょう。

⑥融資を受ける金融機関には入出金の多い口座を開設する

…入金や支払いなどの資金の動きの多い口座を融資を受ける金融機関に開設していると、売上入金や経費の支払いの動きがわかりますので、融資申し込み会社に対する金融機関の理解が高まり、信用性が出て融資を受けやすくなります。

通勤

皆さんは、普段どんな方法で通勤されていますか？自家用車でという方もいらっしゃるでしょうが、電車やバス通勤の方も多いことと思います。

混雑した状態で長時間揺られる車内、イヤホンの音漏れ、雨の日の濡れた傘等々、通勤だけで心底疲れてしまうこともあるでしょう。

毎日朝晩必ず通らなくてはならない道ですから、少しでも心穏やかに過ごしたいものですよね。何より、通勤時間でストレスを溜めてしまっては、健康や仕事にも影響を及ぼしかねません。

全国平均で見ると自家用車通勤の割合が最も高く、半数近くを占めるという統計もありますが、都市部に限れば公共交通機関の利用者割合がもっと増えることでしょう。

国土交通省が年に一度発表する、三大都市圏の平均混雑率推移の統計があります。昭和50年代、200％前後であった混雑率は、平成27年度には東京圏で164％、大阪圏で124％、名古屋圏で134％と、軒並み減少傾向にあります。

車両の増加や相互乗り入れ等、ハード面の整備のおかげで混雑が緩和されつつあることは間違いないようです。さらに、鉄道各社が独自に行う時差通勤促進活動や、電車の混雑度情報を共有できるアプリの開発等、ソフト面での工夫もなされています。

実際に交通機関を利用する私たちが自ら動くことも、混雑緩和の大きな一助となることでしょう。朝活という言葉をよく聞くようになりましたが、電車の空いている早朝に会社近くまで行き、運動やセミナー受講、お稽古事等好きな活動に時間を使えば、ストレスなく通勤時間を過ごせるだけでなく、リフレッシュした状態で始業時間を迎えられます。皆さんなら、どのような取り組みが考えられますか？

防災の日

九月一日は防災の日です。

大正十二年九月一日に発生した関東大震災の日付に由来するそうです。

この日を中心とした一週間を防災週間とし、毎年この時期には全国各地で様々な防災訓練が行われています。職場や学校での訓練に加え、最近では自治体の一斉訓練で緊急地震速報等が携帯に送られてくることもあります。

色々なところでいつも言われていることではありますが、もう一度この防災の日を機に、自宅や職場等を防災の目線で見直してみませんか。家具の固定や防災グッズの入れ替え、緊急時の避難場所やご家族との連絡方法の確認などを確実に行って、いつか来るかもしれない災害に備えましょう。

～お彼岸～

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、皆さんのお住まいの地域ではいかがですか？

昼夜の長さが同じになる春分の日、秋分の日を中日とした７日間を「お彼岸」と言い、お墓参り等をされる方も多いでしょうが、その際のお供えのお菓子と言えば「おはぎ」ですね。赤い小豆には「魔除け」、もち米には「五穀豊穣」の意味を込めて作られてきたそうです。

春は牡丹の花に似せて作ることから「ぼたもち」、秋は萩の花に似せて作ることから「おはぎ」と言うそうです。

秋のお彼岸には、おはぎを頂きながら、ご自身のルーツである方々に思いを馳せてみるのも良いかもしれません。ちなみに、彼岸とは悟りの世界である「あちら側」、その反対が煩悩の世界である「こちら側」、私たちの暮らす人間の世界、此岸（しがん）です。